第３２号　　令和２年（2020 年）２月発行

支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

もくじ

Ｐ１　支援員さんの声
Ｐ２　支援員さんの声
Ｐ３　活動団体報告
Ｐ４　支援員研修会報告

支援員さんの声

日々の支援員活動の中での思いや、
感じたことなどをお寄せいただきました。

支援員のつぶやき

恩　田　浩　幸（岩国市在住）

水は万物の源と言います。私が活動している場所には、例えば、セツブンソウ、ニリンソウなどは錦川流域、ササユリは島田川水系の東川流域と言うふうに、清き水に育まれています。

しかし西日本豪雨以降、河川はズタズタになり、自宅の側を流れる島田川もその被害をうけました。近くに螢橋と言う橋が架かっていて、かつては邪魔なくらいホタルが飛んだものです。

豪雨以降、壊滅寸前のホタルを復活させるため「周東ホタル再生プロジェクト」を立ち上げ、できればそれを起爆剤に地域おこしにつなげればと頑張っています。今年の第１回目の支援員研修会は豊田町のホタルミュージアムであり、プロジェクトにとって大変参考になりました。次の研修会もとても楽しみです。

さて、今年も周南市八代にツルが飛来しました。自宅から監視所まで車で１５分程度なので、シーズンには見学に行くのが楽しみです。

しかし、近年飛来時期が遅くなり、飛来するツルの数も減ってきています。九州の出水市で傷ついたツルを保護し、放鳥しても戻ってこないありさまです。また、八代以外の地に飛来することも見受けられ、本州唯一の越冬地では無くなってきています。

私もツルの寝床整備のボランティアに参加しましたが、様々な支援やまた税金を投入しても効果が薄いのではと、景気が悪い昨今ですから批判の声も聞こえてきます。毎年慰霊祭には、児童がツルの舞を踊って戻ってくる日を待ちわびていますが、どこか虚しさだけが残ります。

最近、かつてカブトガニの町として有名だった岡山県の笠岡市のことを思い出しました。カブトガニが減少し、ついには天然記念物を返上した笠岡市。八代のツルが同じ末路を辿るような気がして、寂しいと思うのは私だけでしょうか。

支援員になって共に学ぶ

土　田　雄　二（山口市在住）

５０代後半頃から、寂地山のカタクリや十種ヶ峰のヤマシャクヤクなどを見に、休日に夫婦で県内の山登りをするようになりました。還暦を過ぎてからは、環境学習推進センター主催の「秋吉台の植物観察会」や「竜王山の自然観察会」などにも参加し、山野草や樹木、野鳥などの名前や生態、特徴などを解説していただき、知識を深めるとともに貴重な動植物の保護の必要性を学んでまいりました。

孫が４歳になったころからは、十種ヶ峰のヤマシャクヤク観察登山に同行するようになり、山登りの楽しさや達成感を味わうとともに、登山道で見つけた昆虫や蛇、トカゲ、山野草や野鳥などへの興味関心が成長とともに深まり、小学生になった頃には図鑑で調べるようになりました。

ヤマシャクヤク

そうした中、野生動植物種保護支援員制度を知り、夫婦と小学１年生の男児の孫の３名で、平成３０年１０月に登録していただきました。

私たちにとって初めての支援員研修会は、その月に岩国市の広瀬で開催され、オオサンショウウオの保護活動を見学しました。午前中の研究者の講演や支援員の役割の講義の聴講は、１年生の孫には少し荷が重かったようですが、午後からの保護施設見学では、初めて見るオオサンショウウオの姿やその大きさに目を見張っていました。

２回目は平成３１年３月にきらら浜自然観察公園で開催され、山口湾のラムサール条約登録への取組を聴講し、公園内の野鳥、なかでもクロツラヘラサギの観察をしました。孫は相変わらず座学の忍耐力不足で、講義中に一時中座をしたりもしましたが、野鳥観察になると俄然元気いっぱいに公園内を走り回っていました。デジカメでクロツラヘラサギのアップや上空を飛ぶミサゴを撮影していたのには少し驚かされました。

３回目は令和元年１１月に豊田ほたるミュージアムで開催され、川野学芸員の講演を聴講し、ハリガネムシの生態を観察しました。２年生になった孫は、川野学芸員のお話に興味津々で、講演中に中座することもなく、少しだけ成長を感じました。午後からのほたる谷公園でのハリガネムシの生態観察も、初めて見て触って楽しかったようですが、カマキリが大好きな孫は、できればカマキリを捕まえたかったようです。

ハリガネムシ

支援員研修会に参加してから、生きものに関して孫との共通の話題で盛り上がることが多くなりましたが、最近では「ざんねんないきもの辞典」などで知識を吸収しているようで、難しいクイズを出題されてタジタジになっています。

支援員としては何も活動らしいことはしておりませんが、研修会に参加することで孫と共に自然の大切さや保護の重要性を学び、家族や友だちに伝えていくことが私たちにできることではないかと思っており、これからも参加してまいります。

活動団体報告

全県的な活動を行っておられる「やまぐち自然共生ネットワーク」の会長 中村さんに、活動状況を紹介していただきました。

第16回リレーミーティング in 見島

やまぐち自然共生ネットワーク会長　中 村 裕 三

やまぐち自然共生ネットワークは、平成１６年７月に県内の自然保護活動をしている団体と個人で設立されました。一口に自然と共生と言っても、野生生物保護、自然観察、登山から河川・道路・海岸等の美化清掃まで様々あります。

本会では全県的なネットワークを形成して、相互に情報交換や交流することで「人と自然のふれあう魅力あるやまぐち」をつくることを目指しています。

県内の自然観察をメインテーマに、１泊２日でリレーミーティングを開催し、今年で１６回目を迎えました。

今回は、６月２９～３０日に、萩市見島で実施しました。台風の影響もあり、中止の声も上がりましたが、参加者の熱意と定期船「ゆりや」のおかげで無事着岸できました。

午前中は「ジーコンボ古墳群」「見島ダム」「国指定天然記念物のカメ生息地」を回遊。午後からは総会に続いて「萩ジオパーク」「見島牛」「見島の野鳥」「見島の植物」の活動報告を興味津々で聞きほれました。

その後、島の方も交えて５０名でお互いの活動を紹介した有意義な交流会でした。翌日は雨天のためにスケジュールを変更して自由解散となりました。

帰路の港では、地元の方が紙テープでの出航を演出していただき、一同感激。

毎年、県内各地でよく学び、楽しみ多いリレーミーティングを企画していますので、興味のある方は「やまぐち自然共生ネットワークホームページ」（info@yama-kyou.net）までお問い合わせください。

年会費は個人１，０００円、団体２，０００円で入会をお待ちしています。

回	開　催　日	開　催　場　所
1	平成17年　1月	周南市八代
2	平成17年10月	秋吉台
3	平成18年10月	錦川流域
4	平成19年　9月	角島
5	平成20年　9月	椹野川流域
6	平成21年11月	周防大島
7	平成22年10月	萩
8	平成23年　5月	長野山（鹿野）
9	平成24年10月	竜王山
１０	平成25年11月	徳地
１１	平成26年10月	錦川流域
１２	平成27年　6月	山口
１３	平成28年　6月	長門
１４	平成29年　6月	秋吉台～小郡
１５	平成30年11月	宇部

リレーミーティング開催場所

支援員研修会開催報告

研修会の内容は、環境学習推進センターのホームページ「環境学習のひろば」の事業報告に掲載していますので、概要を紹介します。

〈第１回研修会〉

◇日　時：令和元年１１月１７日（日）　１０：００〜１５：００
◇場　所：豊田ホタルの里ミュージアム、ほたる谷公園(下関市豊田町)
◇参加者：２９人（内　子ども４人）
◇概　要：

午前中は、「豊田ホタルの里ミュージアム」の川野敬介学芸員から、ミュージアムの取組状況とハリガネムシの生態についての講演と、県自然保護課職員から、支援員の役割とレッドデータブックやまぐちの改訂についての講義を受けました。

「ほたる谷公園」に移動して実施した午後のハリガネムシの観察会では、水が少なくなった水路の落葉の中から、多くのハリガネムシを見つけ、その形態や雌雄の違いなどの特徴を観察しました。

カマキリやバッタに寄生したハリガネムシは、宿主を水辺に誘導して水の中に落とした後に、水中で宿主の体から出て交尾するという特異な生活をしていること。また、ハリガネムシが、水辺に落としたカマキリなどが、餌が少ない時期の魚や水生生物の貴重な栄養源になっていることなどについて、学習することができました。

〈第２回研修会〉

◇日　時：令和２年２月９日（日）　１１：１０〜１５：００
◇場　所：錦ふれあいセンター、セツブンソウ自生地(岩国市錦町広瀬)
◇参加者：４７人（内　子ども３人）
◇概　要

午前中は、岩国市錦町広瀬で、山口県唯一のセツブンソウの自生地を発見し、地域の人達と保護活動に取り組んでおられる古市節分草保存会の林節司会長から、講義を受けました。

地元の方々と公開方法について検討し、マイカーによる渋滞、駐車場の確保、ゴミ・トイレ問題等の懸念と赤字ローカル線である錦川清流線の利用向上・地元商店街との連携等を考慮し、錦川清流線の利用者のみへの公開としたこと、また、セツブンソウは、高さが１０センチ程度の小さな植物であるため、他の大きな植物と同様に温暖な時期に咲くと、陰になって光合成出来ず競争に負けてしまう、寒い時期に花を咲かせるスプリング・エフェメラルの一種であることなどの紹介がありました。

午後は、セツブンソウの自生地に移動し、その環境や、花の特徴等についての説明を受けながら、観察会を行いました。参加者は、カメラを手に、見学路が整備された自生地内を巡回しながら、多くの白く、けなげなセツブンソウの美しい姿に見入っていました。

発行元：（公財）山口県ひとづくり財団　環境学習推進センター
〒754-0893　山口市秋穂二島 1062
TEL 083-987-1110　FAX 083-987-1720
E-mail kankyo.c@hito21.jp
https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/index.php
地域ESD活動推進拠点